

歴史 | 探訪

~文化財を巡る~ 30

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。【最終回】
《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「豊岡の文化財」

歴史探訪~文化財を巡る~の最終回は豊岡地域を取り上げます。豊岡地域は中央を円山川が流れ、長い年月をかけて形成された豊岡盆地の中で育まれた文化財が数多くあります。

豊岡地域を巡る

縄文時代中期から晩期にかけて続いていた中谷貝塚では、汽水にすむヤマトシジミが貝類の大半を占め、土器や石器、植物の実なども見つかっています。近くにある長谷貝塚、荒原貝塚などもほぼ同じ時代の貝塚で、当時の生活環境とともに、この辺りまで海が入り込んでいたことを教えてくれます。

河口から7.5kmにある玄武洞付近では、その上流までの開けた地形から一転し、左右の山が迫っています。日本一川霧の発生が多く、また川が氾濫して過去に何度も流路を変えたという要因の一つにもなっています。コリヤナギはこのような土地を好んで自生するため、江戸時代からこれを利用した杞柳細工(柳ごうり生産用具一式および製品)が作られ、鞆産業へと発展しました。

住民が円山川の度重なる洪水に悩まされたため、大正から昭和にかけて大改修(改修図面が円山川改修実測図として指定)し、同時に耕地整理を行って出来上がった町並みが、現在の豊岡市中心市街地の基礎になりました。しかし大正14年に起きた北但大震災によって大きな被害を受けたため、それまでの耕地整理を見直し、災害に強い町を目指して豊岡町役場(現豊岡市役所庁舎)をはじめとしたコンクリート造りの建物が建てられました。店舗兼住宅などにも採用され、これらは「震災復興建築群」として今も残っています。

日本海沿岸を流れる対馬海流の影響で、温帯・亜熱帯の常緑広葉樹が生い茂る絹巻神社(気比)の暖地性原生林が広がっています。また、鎌倉時代中期に造られた「石造九重塔」(県指定建造物)が八幡神社(津居山)境内にあります。これは市内最古の石造物で、塔の高さは5.6mもあり、津居山港を行き来する船の安全を見守っています。

気比神社の北側に「気比銅鐸出土地(跡)」(市指定史跡)があります。大正元年に4基の銅鐸が偶然発見され、発掘調査後、国に買い上げられました。銅鐸は国の重要文化財となり東京国立博物館に保管されています。

※太字で記載している箇所は、これまでに紹介した文化財です。

歴史探訪~文化財を巡る~では100件近い文化財を取り上げましたが、紹介できていないものも多くあります。ぜひこの機会に、身近にある文化財に親しんでください。



▲来日山から豊岡盆地を見る(左下に玄武洞)



▲震災復興建築が建ち並ぶ大開通り



▲石造九重塔

語句の解説

- ・貝塚…人が食べた貝の殻が堆積したもの。貝塚からは多様なものが発見され、生活や環境を知ることができる。
- ・汽水…海水と淡水が混じった塩分の低い水。

●発行/豊岡市
☎07961231111
市長室 FAX 241004
●編集/政策調整部秘書広報課
FAX 231124

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>

(総合支所)
・竹野 ☎4711111
・出石 ☎5231111
・城崎 ☎5442321000
・日高 ☎5442321000
・但東 ☎5442321000